

学校評価書

学校法人第三静岡学園

静岡学園なごみ高等学校 学校評価委員

令和7年3月27日（木） 3時

評価対象	令和5年度の自己評価	自己評価（ABCD）	令和6年度目標・改善策	意見
学力養成	入試直前まで指導していたことは、感謝に値する。基礎学力の無い生徒の指導を考えなければならない。	B	生徒が質問に来やすい職員室を目指したい。質問タイムの活用。映像による授業の活用。入試直前までの指導は難関大学合格に寄与。	使用教科書はレベルアップしたかどうか。
生徒指導 心の育み	出席の無理強いは難しい側面がある。従来は、疾患を抱えている生徒の教育は今一つ。	B	疾患を抱えている生徒に細心な教育をお願いしたい。保護者との密接な連絡を行う。事務職も教育に参加。養護教諭、カウンセラーの指導を仰ぐ。心身ともに健康な生徒の育成のために、部活動の始動。	問題を抱えていない生徒には、授業の必要性を教えなければならない。
広報・募集	県外に本校を置く学習センターの生徒募集、入学者の確定は10月から始まる。本校は遅すぎる	B	これは分かるが、慎重に行っていかなければならないとの声有り。学校における生徒の希望者の増加は、口コミ。教育内容の充実した学校づくりが第一。令和6年度Ⅰ期入試は、中学校に対し推薦書の提出を求めたが、令和7年度においては求めない。	オープンキャンパス（デモ授業）（公開授業）（学校見学）を保護者にお知らせするパンフレットを作ったかどうか。事務職員も説明会に参加したかどうか。石原先生の意見：別紙
学校設備	設備については広く、教員の要望を聞き予算編成。従来は最低限の学校設備であった。	B	「令和5年度自己評価」の改善に取り組むと同時に、TV等、視聴覚施設を利用できるようにしていただきたい。	開校に当たって、理科室、家庭科室、授業用体育施設は最低限であったように思われる。今後生徒数が増加するに当たってどんなものが必要か、要望を担当教諭から聞き、石田主幹教諭がとりまとめ予算化したらどうか。石原先生の意見：別紙
総括・結論	学校運営は理事長（校長）が中心で行ってきたが、これを改善したい。	B	事務組織の改善、職員間で自由に話し合える職員会議。その活用を考える。	職員会議において、事業計画を明確化したらどうか。石原先生の意見：別紙